

自動車の機器処理記録書・2002年11月23日～2003年1月16日

# VAZ-21310： 圧縮圧力とトルク感が向上、 動力伝達装置の騒音が解消

漁業コルホーズ・ムルマン（農業生産協同組合）、組合長A.I.チェチュイ承認・処理実施：アルクティク・アフト有限責任会社、社長I.V.パヴロフ

ロシア、ムルマンスク州テリベルカ・2002年11月23日処理・2003年1月16日確認測定・3,135 km走行

## 製品

XADOジェル状リバイタリザント（摩擦面再生剤）  
ガソリンエンジン用、各種変速機および減速機用

## 処理対象機

VAZ-21310、登録番号Kh 923 AU 51  
エンジン・変速機・トランスファ・フロントアクスル・リヤアクスル

## 文書種別

機器処理記録書、  
当事者双方の署名・捺印付き

| 対象機             | 開始時の走行距離  | 評価項目                          |
|-----------------|-----------|-------------------------------|
| ガソリンエンジン        | 88,530 km | 気筒別圧縮圧力（4気筒）、騒音・振動、トルク感・加速応答性 |
| 変速機             | 88,530 km | 走行時の騒音、変速操作の確実性               |
| トランスファ          | 88,530 km | 走行時の騒音・振動                     |
| フロントアクスル・リヤアクスル | 88,530 km | 走行時の騒音（40～60 km/h走行時を含む）      |

車両は通常運用中のものである。全機器を分解せずにXADOジェル状リバイタリザントで処理し、確認測定までの走行距離は3,135 kmである。

# 主要結果

↑ 16.4 %

気筒別圧縮圧力、9～10 → 11～11.5

気筒間の圧縮圧力の均一化

## エンジンの気筒別圧縮圧力

| 気筒        | 処理前  | 処理後   | 変化量  |
|-----------|------|-------|------|
| 第1気筒      | 10   | 11.4  | +1.4 |
| 第2気筒      | 10   | 11.5  | +1.5 |
| 第3気筒      | 10   | 11.5  | +1.5 |
| 第4気筒      | 9    | 11    | +2   |
| エンジン全体の平均 | 9.75 | 11.35 | +1.6 |

測定は2002年11月23日と2003年1月16日に実施し、その間の走行距離は3,135 kmである。増加量が最大であったのは最も摩耗していた気筒であり、気筒間のばらつきは半減した。

## 処理前後の機器の状態

| 対象機      | 処理前                    | 処理後                                     |
|----------|------------------------|-----------------------------------------|
| エンジン     | 騒音・振動の増大、トルク感・加速応答性の不足 | 騒音・振動の低減、トルク感・加速応答性の向上、潤滑油圧力・アイドル回転数の上昇 |
| 変速機      | 騒音の増大、走行中の3速・5速のギヤ抜け   | 騒音の消失、確実な変速操作                           |
| トランスファ   | 走行時の騒音・振動の増大           | 騒音・振動の消失                                |
| フロントアクスル | 走行時の騒音の増大              | 騒音の消失                                   |
| リアアクスル   | 走行時の騒音の増大              | 2002年12月20日のリアアクスル追加処理後、騒音の消失           |

動力伝達装置の各機器は変速機・減速機用、エンジンはガソリンエンジン用のXADOジェル状リバイタリザントで、いずれも分解せずに処理した。

## 記録書の記載内容

走行距離計の表示値**91,665 km**の時点で、委員会は次のとおり確認した。変速機は変速操作が確実になり、騒音が消失した。トランスファは騒音・振動が消失した。フロントアクスルおよびリヤアクスルは騒音が消失した。エンジンは騒音・振動が低減し、エンジンのトルク感と加速応答性が向上し、潤滑油圧力とアイドル回転数が上昇した。処理後の気筒別圧縮圧力は**11.4 | 11.5 | 11.5 | 11**であった。**2002年12月20日**付の別記録によれば、変速機・減速機用ジェルによるリヤアクスルの追加処理が実施され、**40～60 km/h**走行時の騒音が消失した。処理前は走行中に変速機の3速と5速のギヤ抜けが生じており、最も摩耗した気筒の圧縮圧力は**9**で、他の気筒は**10**であった。最大の増加量を示したのはまさにこの気筒である。気密性の回復により全気筒の圧縮圧力が同一水準に引き上げられ、それに伴いエンジンのトルク感と円滑な運転が回復した。

**XADO**

© XADO。無断転載禁止

本結果は、通常運用中の乗用車VAZ-21310と、そのエンジンおよび動力伝達装置の各機器に対するXADOジェル状リバイタリザントによる処理に関するものである。他の機械類や異なる運用条件では、測定値が異なる場合がある。署名・捺印のある記録書の原本は全文を公開しており、ダウンロードできる。